

主 保護司会だより

鴻巣地区保護司会 (鴻巣市・北本市・桶川市)

第8号

令和7年3月31日



高尾さくら公園 (北本市)

息の長い支援のために

さいたま保護観察所

所長 猪間 徳子



鴻巣地区保護司会の皆様には、平素から更生保護の諸活動に御尽力を賜

り、誠にありがとうございます。

当県では、令和4年10月から、全国3県でしか行われていない「更生保護地域連携拠点事業」を実施しており、罪を犯した人たちに對する息の長い支援を可能とする「地域支援ネットワーク」の構築を各地で進めているところです。鴻巣市においては既にネットワークが構築されており、桶川市、北本市においても今後働き掛けを行っていく予定です。保護観察・生活環境調整の対象者やその家族が、皆様の担当から離れた後、頼れる人がいなくなり不安そうな様子であったり、担当終了後に相談があったりした場合に、このネットワークを活用するなどして必要な支援につなぐことができますので、保護観察所や拠点事業所に御連絡を頂ければと思います。

罪を犯した人たちが地域で孤立せず自分の居場所をみつけていけるよう、引き続きの御支援をよろしくお願い申し上げます。

保護司会だよりによせて

埼玉県更生保護観察協会

鴻巣支部副支部長

北本市長 三宮 幸雄



保護司会の皆様には、平素より、地域の更生保護活動に御尽力を賜り、心から御礼申し上げます。

近年、私たちを取り巻く社会環境は著しく変化しており、犯罪や非行についても要因や背景が複雑に絡み合い多様化が進んでおります。また、罪を犯した人の中には、地域社会で生活する上で様々な課題を抱えている場合も多く、その課題を社会全体で解消していくことが必要です。

このような状況の中で、犯罪や非行をした人たちの心に寄り添い、社会復帰への支援、さらには犯罪を生まない地域づくりなど保護司の皆様の活動は、地域社会にとって一層不可欠なものであると認識しております。

今後、貴会と共に、安心して暮らすことのできる、より住みやすい魅力的なまちづくりに取り組んでまいりますので、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、鴻巣地区保護司会の更なる御発展と、会員の皆様の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

社会を明るくする運動

鴻巣地区保護司会

会長 大島 通人

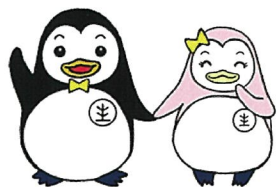


昨年は、お暑い中、またお忙しい中、社会を明るくする運動の駅頭での広報活動

に多くの皆様のご参加をいただきました。また、初めて桶川市で更生保護女性会との合同公演会を開催できましたことは、関係者の皆様のご協力のたまものと感謝申し上げます。それから、作文コンテストでは、桶川市の中学生の作品が埼玉県更生保護観察協会理事長賞を受賞しました。誠にありがとうございます。

今年も7月の社会を明るくする運動の強調月間では、昨年同様に各支部にて駅頭での広報活動や中学校への物資の配布を実施し、合同公演会はクレーアこうのすにおいて開催を予定しております。また、鴻巣地区保護司会では、小・中学校の児童・生徒の作文を募集しております。多くの応募をお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。



鴻巣地区を担当して

へそまがり

さいたま保護観察所

保護観察官 山岸 繁



鴻巣地区の担当をさせていただいて早いもので2年経ちました。3年目の担当

を希望していますが、どうなることやら。数年前から、SDGsや持続可能という言葉を聞く度に、私の頭の中に「マークが灯ります。そもそも社会とは、持続可能が基本なのではないのかと。法律や組織や社会も然りです。当たり前のことでバッジを作ったり、言語化する意味と意図は、どこにあるの？」

こんなことを考えている人間を、おそらく「へそまがり」と言うのでしょうか。素直でいることが、良いのでしょうかけれど、私は、あえて「へそまがり」を選びたいと思います。

私は、金太郎飴ではない。

個性を大切にしたい。

意識せずに、気づかないままご迷惑やご負担をおかけしていることと思いが、今後とも指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

法務大臣表彰を受賞して

老保護司の独り言

鴻巣支部 保護司 大澤 健一



令和6年10月2日、更生保護制度施行75周年記念大会に参加して来た。5年

に一度開催「会場は、東京国際フォーラム。全国から集った保護司の大会である。一部は表彰式及び来賓挨拶。二部がトヨタ自動車副社長の講演が行われた。学校の卒業証書以外に表彰に縁がない私にとって、大臣表彰など正に青天の霹靂だ。身に覚えがないとすれば、長々と保護司を続けてきたことへの褒美なのだろう。

お陰様で保護司としての体験を通して多くの研鑽を積むことが出来た。対象者が保護観察中に再犯をしてしまったときには、自分の至らなさに落ち込むこともあった。しかし、「俺、結婚しました!」と赤ちゃんを抱いて挨拶に来てくれた人や「今、コンビニの店長をやっています」と笑顔で声をかけてくれる人もいた。正に私の至福の時だ。保護司冥利に尽きる。もう定年間近だが、お上からお役御免の沙汰があるまで、頑張ってみるか!

第74回 社会を明るくする運動

7月を強調月間とする“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くために法務省が主唱した全国的な運動です。

更生保護活動について

～こんな活動をしています～

北本市更生保護女性会 会長 岡野 貞子

更生保護の取り組みが十分な効果を上げるためには、犯罪や非行から立ち直ろうとする人たちが生活する地域社会の協力が必要です。更生保護の取り組みに進んで協力し、誰もが人として尊重され心豊かに生きられる、明るい社会づくりを目指して活動しているボランティア団体です。

会員は、「もっと良い社会にしたい」「社会の役に立ちたい」という思いで、地域に根差した活動をしています。

毎年7月に行われる社会を明るくする運動強調月間に愛の募金活動を行い、理解の周知に努めています。

毎年7月に愛の図書費の贈呈、市内小学校7校、市内中学校4校に隔年で行われ、令和6年は中学校4校へ贈呈しました。子育て支援活動「イキイキとまちゃん体操」及び各種サロンの活動、令和3年には子ども食堂「SARAちゃん食堂」を立ち上げ、毎月第2金曜日に北本市総合福祉センターにて実施しています。

令和6年11月16日には、「北本市更生保護女性会親業講演会」を開催し、子育て中のお母さんなど、たくさんの方々に参加していただき、意義あるなごやか講演会となりました。

私たちは、更生保護を通して、地域社会の活動にボランティアとして活動をしてまいりたいと思います。



SARAちゃん食堂

第10回社会を明るくする運動講演会

「薬物事犯 偏見ありませんか？」

当事者と考える再犯防止」

講師 塚本 堅一 氏

～語らぬ重み～ 鴻巣支部 保護司 小川 秀樹

元NHKアナウンサー、塚本堅一さんの講演「薬物事犯 偏見はありませんか？」が、昨年7月6日の猛暑の午後、桶川市のさいたま文学館で開かれた。

この種の講演で聞く側は、「なぜ薬物に手を染めたか」など深く深い苦悩の吐露を期待する。しかし塚本さんは、その情報をサラリと流し、今取り組んでいる薬物依存者の社会復帰の取り組みや、報道を含めた薬物依存者と社会との接点の課題を整理して報告した。

講演後、塚本さんの著書「僕が違法薬物で逮捕されNHKをクビになった話」を読んだ。講演では語られなかった薬物との出会いと逮捕後の濃密な関係者とのつながりが描かれ、「このギャップ何？」と塚本ワールドに引き込まれた。

塚本さんは、「過去の自分でなく、今の自分を見てほしい」と演壇に立ったに違いない。だから敢えて過去の自分の事は、「本を読んでね」と伝えたのだろう。「語らない」には理由がある。その人の過去でなく今を、私は理解しているだろうか。



講師 塚本 堅一 氏



社会を明るくする運動 ～21年前は～

北本支部長 野口 宗

私が保護司に就任したのは、21年前になりますが、当時の7月1日は、午前10時に市役所へ集合し広報車に乗り合わせ、「社会を明るくする運動」のスローガンを4人で交代しつつ唱えました。夕方からは、更生保護女性会の方々と一緒に北本駅の東・西に分かれて啓発物資の配布活動を行いました。当時の物資の量は今よりも種類が多く、両手で受け取る方もいました。初めての活動でしたが、今思えば当時の様子が昨日の事のように思い浮かびます。保護司会は、「如何にして社会を明るくすることができるか」を考えている団体だと感じました。

近年は、社会情勢や本人の家庭環境で保護司の担い手の減少傾向が止まりません。国も保護司制度を将来に渡り維持・発展させようとして取り組んでいます。私も1人でも多くの方を保護司として迎えられるように努力したいと思います。



駅頭啓発 北本支部



駅頭啓発 鴻巣支部



駅頭啓発 桶川支部



更生保護女性会との社会を明るくする運動施設参観 前橋刑務所



北本市立中丸小学校へ訪問



埼玉県立北本高等学校へ訪問



中学3年生へ配布したリーフレット及びボールペン

藍綬褒章を受章して

やさしい日

鴻巣支部長 島崎孝江

この度、令和6年春の叙勲に際し、思いがけず藍綬褒章をいただきました。これもひとえに保護司の皆様、事務局のお世話になりながら務めさせていただいた賜物と感謝申し上げます。昨年の川上先生に続いての褒章とてもうれしく思います。

私は、平成15年5月13日に委嘱を受け、現在に至っております。当時の矢沢博会長、関根栄子様をはじめ多くの先輩方のご指導はもとより保護司会の温かいご支援をいただけてまいりました。これまでの対象者をふりかえってみますと、やっぱり小さな少年が思い出されます。手首、足首まで刺青をした背の高い子でしたが、やさしい目をした子でした。時間にルーズな子で手こずりましたが、根は悪い子でなく、最後の面接には彼女も連れてきました。「頑張ってたね」と見送りました。保護司になってこんなうれしいことはありませんでした。



法務省庁舎前にて

『面接に役立つコインマップ』研修会

桶川支部 保護司 稲元 剛

保護観察の中心となる活動となる面接について、その展開における各段階の要点を現場の声を交えてのお話より始まり、対象者との関係作りには各段階でそれぞれに困難な点があり、各々の保護司が工夫して取り組んでおられる姿に共感を覚えしました。

そして、テーマであるコインマップです。この段階の面接では有効かな等と考えながら実演を見ていました。実際に対象者・保護司どちらも体験したところ、浮き彫りになる自分、周りの人の中の自分を客観的に再発見するという不思議な感触を得ました。

翌日出勤すると、普段とは少し違った仲間の顔。この人にどれだけ助けられているのかと私の見方が変わっただのかもしれない。



研修会の様子

保護司の皆様との

インタビューを通して

F M ころのすフラワラジヲ 伊藤 恵

毎年7月の「社会を明るくする強調月間」では、毎日3回活動理念のメッセージを放送しています。そのご縁で皆様とお話する機会を得ており、「更生」という難しい寄り添いをされている皆様に敬意を表するばかりです。

保護司の「司（つかさどる）」には、官の職分として行うという意味があるということですが、ボランティアという立場で、役目としてその事にあたるお心内を察するには、私自身は未熟であると言わざるを得ません。そんな中、令和7年1月に「国連準則」に保護司理念が盛り込まれるというニュースに触れ、日本独自の制度が認められたことによって、保護司活動の理解が進み、ひいては社会全体で支えあう、寄り添いあうということがもっと広がれば「社会は明るくなる」と嬉しくなりました。

時代とともに保護司の皆様への向き合う事案も変化されていきます。放送を通じて、少しでも周知広報の一翼を担えればと考えております。



フラワラジヲ スタジオにて

保護司と民生児童委員

鴻巣市民生委員・児童委員協議会連合会 会長 大島 幸雄



保護司と民生委員 児童委員（以下、民生委員と称す）に共通するのは、役割

がボランティア活動に類することであり、無報酬で、その活動に伴う実費に相当する額が支給されている点です。

民生委員は、地域に密着した日々の活動の中で高齢者や子育て世代の相談や関係機関の紹介など、住民に対する支援が重要な活動の柱です。

両者の活動には、個人の生活に対し有効な援助や支援をするという似た部分があるとはいえ、活動中の接点はそれほど多くありません。保護司の対象者は若年層から高齢者に及んでいます。民生委員の場合は、高齢者を対象とする割合がより顕著な傾向にあります。

保護司と民生委員の協働が成立するのは、保護司が関与する高齢者のおかれた状況に、民生委員の行う見守り活動などが重なるときだと思われます。

お互いに守秘義務を守り、個人情報に留意しつつ協働したときに大きな成果が現れると意識して活動したいものです。

保護司の異動

《退任》

川上 秀 忍 (鴻巣)

西野 正 江 (鴻巣)

あとがき

昨年5月、滋賀県大津市で保護司の男性が殺害される事件が起きました。

全国の更生保護関係者が衝撃を受け、また大きな影響がありました。そのひとつは保護司のなり手探しの更なる難しさです。鴻巣地区保護司会では定員50名のところ現在36名で充足率72%、現役保護司の高齢化も相まって今後の会員拡大に頭を痛めているところです。

市民の皆様には「保護司会だより」を通して更生保護活動に、より一層のご理解ご協力をいただければ幸いです。

桶川支部長 砂川 貢

《広報委員》

岩崎さと子・大島 通人・小川 秀樹

栗原 依子・島崎 孝江・志村 京子

砂川 貢・津田 悦子

《発行》鴻巣地区保護司会

《編集》鴻巣地区保護司会広報部会

鴻巣市中央一

鴻巣市やさしさ支援課内

おめでとうございます

表彰者紹介

令和6年春 藍綬褒章

島崎 孝 江 (鴻巣)

法務大臣表彰

大澤 健 一 (鴻巣)

関東地方保護司連盟会長表彰

志村 京 子 (北本)

大護 俊 光 (北本)

津田 悦 子 (鴻巣)

さいたま保護観察所長表彰

塩原 美佐子 (鴻巣)

埼玉県保護司会連合会会長表彰

内田 明 弘 (北本)

斎藤 徹 (鴻巣)

塩澤 力 (桶川)

松井 利 幸 (桶川)



私の楽しみ

佛様を描く

北本支部 保護司 大護 俊 光

趣味をもう一つ増やそうかな、と考えて始めたのが佛画でした。最初は、オーブンカレッジの一講座が始まりでした。百人位入る講堂の授業、一時間位で小筆を持ち、墨で佛様を描く簡単なものでした。

授業中、先生より「別の所でも教えているよ」と案内があり、授業に参加した多くの人がそのお手紙を手に取りました。皆そちらの講座も受けるものだと思手に判断して講習費を払ったのは私だけでした。大きな網にかかったのはわずか一人。これが日本画との出会いでした。日本画は、とても奥が深く難しく、時間がかかることをその時初めて知りました。難しいからこそやりがたえがあります。

日本古来からの手法で佛様を描く。絵の上手い下手を問うのではなく、信仰の対象になる作品を描き続けたいです。



梵字を描いている様子